

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供 1/2							
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1) (4館共通) ア、(東京国立博物館) ア、イ、ウ								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 勝木言一郎 ボランティア室長 金井裕子					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、月例講演会や記念講演会、連続講座、オンラインギャラリートーク等を実施した。月例講演会は、平成館大講堂での対面形式で開催した。8月以降、月例講演会の定員をコロナ禍以前に戻し、感染対策を十分に講じた上で実施した。トーハク講演会手帳を増刷し、学習機会の提供につなげた。また、UDトークを利用した情報保障を実施し、聴覚障がい者をはじめ、多くの鑑賞者に対し学習機会の均等を図った。 感染状況から、従来の対面式によるギャラリートークの開催が困難であることから、引き続きYouTubeでの動画を配信するオンライン形式で毎月1回配信した。10月より、東洋館ミュージアムシアター、平成館大講堂でオンラインギャラリートーク上映会を開催するなど、オンラインギャラリートークの普及に努めた。また、東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートークは、展示室でのギャラリートークを変更し、本館地下教育普及スペースにてスライドトークの形式で、一般来館者向けに実施した。 イ (ア) ファミリー向け教育普及的展示企画として親と子のギャラリートを2回開催した。東京国立博物館・国立科学博物館・東京都恩賜上野動物園が連携に関連する「親と子のギャラリール 翼と羽」では、あわせて三館園によるオンライン配信「上野の山で動物めぐり」を実施した。「親と子のギャラリール 日本美術のつくり方V」では漆工の制作技法に着目し、制作工程や道具、材料などを紹介した。解説の4か国語表記や子ども向けワークシートに加え、制作工程の一部を紹介する動画、触察ボードを設置し、多様な来館者に日本文化に親しむきっかけを提供した。 (イ)「博物館でお花見を」で「東博句会 花見で一句」、「お花見ヨガ in 法隆寺宝物館」、「博物館でアジアの旅」で調査ノートの編集製作や「気軽に椅子ヨガin東洋館」、ボランティアのガイドツアー等の実施、「博物館に初もうで」でワークシートのPDF版の公開など、それぞれ連携企画を実施し、来館者の作品鑑賞を支援した。 (ウ) 本館地下教育普及スペースではZoomによるオンラインワークショップを継続するとともに、5年1月より対面でのワークショップ実施を再開した。また、本館19室のみどりライオン体験コーナー、東洋館6室オアシスは全面的に再開した。恒常的に日本文化体験が行える参加型展示「日本文化のひろば」を本館特別4室にて継続運営し、関連した配信プログラムを実施した。 ウ スクールプログラムのオンライン実施や事前視聴動画の提供を継続しつつ、感染対策を講じながら、段階的に、対面によるスクールプログラムを再開した。盲学校対象のスクールプログラムは、対面での実施を行った。また、教員研修は1月に対面、2月にオンラインで再開した。								
【補足事項】 ア 講演会(月例・記念)15回、参加者3,291名 オンラインギャラリートーク12回 参加者38,229名(参加者はYouTube再生回数) 東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク3回186人、連続講座1回317人、公開講座1回887人 ウ スクールプログラム 137校9,748人(小学校40校2,608人、中学校57校4,241人、高校40校2,892人、高等部専攻科1校7人(うち盲学校のためのスクールプログラム 小学部1校4人、中学部2校3人、高校1校7人、高等部専攻科1校7人を含む)、職場体験11校31人(中学校7校23人、高校4校8人)								
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	85.3%	88%	B		88.0	84.5	-	84.9
講演会等の開催回数(関連指標)	32回	-	-		93	97	19	39
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染予防対策を講じたうえで、段階的に対面による教育普及の催しを再開し、あわせてオンラインプログラムも行った。また、親と子のギャラリールなどの体験型展示、総合文化展関連イベント、スクールプログラムも可能な形での実施や段階的な再開をし、順調に開催されたため、年度計画を達成できたと判断した。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、段階的に講演会やワークショップ等を再開することでコロナ禍以前のニーズに対応し、さらにオンラインやほかの方法をあわせて実施するなど、学習機会の提供を行い、中期計画を遂行できている。							



スクールプログラムの実施風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供 2/2		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1) (東京国立博物館) エ、オ、カ			
担当部課	学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 勝木言一郎 ボランティア室長 金井裕子 課長 竹之内勝典
【実績・成果】			
<p>エ 聴覚障がい者、多言語、世代間コミュニケーションツールとしてのUDトークを講演会で運用するとともに、聴講者に対し、その認知度を高めるべく取り組んだ。また、オンライン配信を伴うワークショップでもUDトークを使用した。視覚障がい者に対しては、引き続き「盲学校のためのスクールプログラム」の実施と、それに伴うボランティア研修や、本館19室において、「触知図」を使った対応、点字パンフレットの作成を行った。</p> <p>本館特別4室「日本文化のひろば」においては、会場内の解説は基本4か国語表記とし、徐々に増えつつある外国人観光客にも対応できた。会場では点字パンフレットの貸し出し、触察ボードの設置により、多様な来館者への配慮を継続した。また、ボランティア等に対するフォローアップ研修を実施し、よりよい学習環境の提供を目指した。</p> <p>新たに感覚過敏の来館者のための取り組みを開始し、感覚刺激をマップ上に示す「センサーマップ」を作成し、トーハクなび上に「休息スポット」を設け、多様な来館者を対象とする教育普及事業のあり方について検討した。</p> <p>オ 5年1月24日(火)に、上野文化の杜新構想実行委員会の事業として、東京芸術大学等と連携し、漆をテーマとしたワークショップを開催した。また、JR東日本と協同し、黒田記念館等をルートに含むツアーを実施した(5年2月22日(水)、3月12日(日)、19日(日))。</p> <p>カ 創立150年記念事業を各種実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「月イチ! トーハクキッズデー」では、例年実施する年に1回の「キッズデー」を毎月第4日曜日に実施した。子どもたちを対象とした参加しやすい内容のワークショップ、鑑賞プログラムなど実施のほか、休息や飲食・授乳・おむつ替えができるよう「キッズスペース」を設けて、子ども連れの来館者が来館しやすい環境を作った。 ・「トーハク劇場へようこそ! 博物館の誕生編」では、ファミリー向けのツアー実施に加え、動画を作成し、オンラインでの配信や平成館ラウンジでの上映を行った。 ・「きて・みて・さわって! 高校生のための学芸員体験」では、博物館学芸員に興味をもつ高校生に対し、2日間のレクチャー、作品取り扱い体験、作品鑑賞体験を実施した後、制作物を「高校生学芸員のおすすめポイント」として本館7室に掲示し、来館者への鑑賞に繋がった。 ・「みんなでつくる記念チケット」は、高校生以下の子どもたちに描いてもらった「150年後に伝えたいトーハクのたからもの」のスケッチから、応募680枚のうち、150枚を選び、ノベルティチケットとして来館者に配布した。 ・「触察ツール」は「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方」にあわせて漆工芸の制作工程や技法がわかるボードを作成した。会期終了後は、本館19室みどりのライオン体験コーナー等での活用を行った。 ・「センサーマップ」は、感覚過敏の方たちが光や音などの刺激の強い場所を事前に知ること、来館時の見通しをたて、来館しやすくなるもので、東京都自閉症協会の当事者、明治大学の協力を得て調査を行い、ウェブサイト上で公開した。マップ作成を初めとして、今後の取り組みにつながる方向性が見られた。 ・ミュージアムショップで販売する創立150年記念グッズの開発協力を行った(4月より販売開始)。 ・新たな来館者層の獲得を図るため、館内周遊型・体験型謎解きイベントである SCRAP×東京国立博物館 リアル脱出ゲーム「東京国立博物館からの脱出」を5月12日(木)より実施した。 ・博物館正門前に創立150年記念郵便ポストを設置した(5月23日(月))。 ・館の歴史を平易な文章と写真によって紹介する『ミュージアムヒストリー 東京国立博物館—150年のあゆみ—』を10月20日(木)に刊行し、館の認知度向上に努めた。 ・特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」の大使館向け内覧会を実施した(10月20日(木))。 ・東京国立博物館創立150年記念式典を実施した(11月7日(月))。 			
【補足事項】 (東京国立博物館) カ SCRAP×東京国立博物館 リアル脱出ゲーム「東京国立博物館からの脱出」の参加者数は、累計36,530人(3月現在)			
【年度計画に対する総合評価】 評定: A	【判定根拠、課題と対応】 150周年事業の実施を通して、より多様な来館者への取り組みを検討し、実施することができた。特に「月イチ! トーハクキッズデー」では今まで来館の少なかった、未就学児などの低年齢の来館者やその家族の来館がしやすくなり、キッズデー以外の日にも低年齢層の来館が見られるようになった。また、「みんなでつくる記念チケット」や「きて・みて・さわって! 高校生のための学芸員体験」における「高校生学芸員のおすすめポイント」は、子どもたちの視点や考えを一般来館者も共有することができて好評であった。また、「触察ツール」や「センサーマップ」の作成により、視覚障がい者や感覚過敏の方など、さまざまな障がいを持つ人々への取り組みとユニバーサル化を実施することができた。 以上のことから、所期の計画を上回る成果を出すことができたことと判断し、A判定とした。		
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 多様な来館者へのコミュニケーションを支援し、その普及に尽力した。また、150年事業は今後の活動につながるものであり、コロナ禍では実施できなかったツアーも再開できたことなど、教育普及に係る多岐にわたる事業を実施できたことは、中期計画2年目の取り組みとして評価できる。 以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、B評価とした。		



月イチ! トーハクキッズデーの様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-①-1) (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ								
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 永島明子					
【実績・成果】								
(四館共通)								
ア 京都国立博物館においては、34回の講演会等を開催し、満足度は84.7%であった。 (京都国立博物館)								
ア・「記念講演会」(17回・2,207人)、「土曜講座」(13回・835人)、「夏期講座(動乱の時代—14世紀)」(1回・84人)を実施した。								
イ・特別展開連鑑賞ガイド「最澄さんと天台宗」(日24,000部・英1,820部・中800部・韓600部)、「歴史の舞台!観心寺と金剛寺」(日27,000部・英1,800部・中500部・韓500部)、「茶の湯のイロハ」(日70,700部・英7,200部・中2,500部・韓1,500部)、「親鸞さんと浄土真宗」(日55,000部・英6,700部・中1,700部・韓1,000部)を発行した。								
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1回・10,000部)を増刷した。								
・「博物館Dictionary」(5回・10,000部)を発行した。								
・新春特集展示「卯づくし—干支を愛でる—」を、入門的な内容とし、平易な題箋の作成、ワークシート「うさぎうさぎ、なにといっしょ?」(日英11,000部・中韓3,000部)の発行を行った。								
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド(日英中韓 各22本)を作成した。								
・京博ナビゲーターの再始動に向けて募集チラシ(20,000部)を作成した。								
ウ・「文化財に親しむ授業」(7回・501人)、複製を活用した授業への助言・補助(3回・500人)を行った。								
・「授業で使える!日本の絵画 鑑賞のヒント」(1,000部)を発行した。								
・「社会科教員のための向上講座」(1回・34人)を実施した。								
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応(7回・89人)を行った。								
・「記者体験in京都国立博物館」(1回・60人)を実施した。								
・職場体験の受け入れた(1回・2人)。								
・調査・国際連携室と連携して国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま—国立博物館の事例から—」を企画・実施した。								
【補足事項】								
ア・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講演会等の定員を講堂座席数の半分(100名)に減らしていたが、感染症防止対策を徹底した上で、10月以降は200名に戻して実施した。								
イ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ワークショップ、ミュージアム・カートは2年度より中止している。								
・特別展開連鑑賞ガイド「茶の湯のイロハ」は、館外の団体からも配布したい旨問い合わせがあるなど好評であった。								
・「文化財に親しむ授業」は、「文化庁 令和4年度Innovate MUSEUM事業」の助成(2,361千円)を受け、「誰もが楽しめる鑑賞の授業をつくる(多様な見え方・感じ方)」をテーマに内容の充実を図った。								
【定量的評価】								
項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	84.7%	82%	B		80.0	83.4	83.4	86
講演会等の開催回数(関連指標)	34回	-	-		37	28	23	31
【年度計画に対する総合評価】					【判定根拠、課題と対応】			
評価: A					新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2年度に引き続き講演会等の定員数を削減し、ハンズオンでのボランティア活動も休止せざるを得なかったが、印刷物の作成を積極的に行うとともに、ウェブサイトの充実を通して、来館者のみならずオンライン利用者に対しても学習機会を拡大することに努めた。また、新春特別展示を入門的な内容で企画し、文化庁からの助成金交付で「文化財に親しむ授業」の内容を充実させた。講座のアンケート調査での満足度も84.7%と目標値を達成できている。4年度は、国際シンポジウムで海外との交流を推進しつつ、情報発信をするという例年にはない事業展開もできたため、特にAと評価する。			
【中期計画記載事項】								
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】					【判定根拠、課題と対応】			
評価: A					新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、コロナ禍前と比較すると縮小せざるを得なかった事業・活動は少なくないが、印刷物やオンラインコンテンツを充実させたほか、中学生の職場体験や、河内長野市・京都市教育委員会と連携した中高生の記者体験など、例年にはない事業を展開できた。また、文化庁に助成金交付申請をしたり、国際シンポジウムを通して海外の教育担当者と情報交換したりするなど、今後の教育活動の足場づくりに積極的に取り組めたため、Aと評価する。			




ワークシート


「うさぎうさぎ、なにといっしょ?」日英版

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-①-1) (4館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ								
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 谷口耕生					
【実績・成果】								
(4館共通)								
ア サンデートークのアンケート結果で平均満足度87.5%を得た。講座は平均満足度89.3%を得た。(奈良国立博物館)								
ア 講座・ワークショップ								
<ul style="list-style-type: none"> ・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計870人の参加があった。 ・公開講座は4つの特別展及び1つの特別陳列の会期中に10回実施。親子講座はわくわくびじゅつギャラリーの会期中に1回実施。計716人の参加があった。 ・夏季講座は新型コロナウイルスの状況に鑑み、開催しないこととし、代案として「夏季連続講座」と題し4回の講座を実施。計270人の参加があり、平均満足度88%を得た。また、その動画をYouTubeならはくチャンネルで公開し、計1,937人の申込があり、計4,561回の視聴があった。 								
イ 小中学校								
<ul style="list-style-type: none"> ・学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を小・中学校等の学校団体を対象に実施した(計30校、2,318人)。 ・奈良教育大学附属中学校のフィールドワーク授業「ならめぐり」の受け入れを行った(2回、42人)。 ・奈良市教育委員会と連携し、オンライン中継授業を奈良市立小学校の5年生を対象に実施した(9回、298人)。 ・遠隔操作ロボット(アバター)を活用したオンライン中継授業を大分県の中学生を対象に実施した(9回、276人)。 ・奈良市と大分県と連携し、奈良市立鼓阪北小学校と大分県国東市立国見小学校の2校の小学校と、当館と大分県立歴史博物館をオンラインでつなぎ、相互の地域の歴史や文化財等について学びあうプログラムを1月30日に実施した(計2回、43人を対象に実施)。 								
ウ 奈良教育大連携								
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良教育大学と連携し、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん!ほとけさまのかたち」の関連オンラインワークショップ動画「なりきり!ほとけさまのかたち」を4本制作し、公式ウェブサイト上で公開した。 								
エ 地下回廊								
<ul style="list-style-type: none"> ・11月より、地下回廊ワークショップコーナーにて、ぶんかつの協力によって作成した仏像レプリカを活用したワークショップ「ほとけさまに服を着せよう!」を計12日実施。見学者数1,045人、着つけ体験参加者数284人。 								
【補足事項】								
								
[サンデートークの様子]			[YouTubeで公開した夏季連続講座映像]					
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年 変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	88.2%	89%	B		88.0	91.7	90.4	92
講演会等の開催回数(関連指数)	26回	-	-		27	25	12	27
【年度計画に対する総合評価】	評定：B							
【判定根拠、課題と対応】	講演会は計画どおり計26回開催し、各回とも新型コロナウイルス対策として定員を半分以下とする措置の継続により、参加者数は3年度と同様の平均70名という水準で推移している。また検温・消毒等の徹底や、講座の事前ウェブ申込システムの運用により、各回とも大きなトラブルもなく安全に実施することができ、アンケートにみる満足度は目標値の水準を概ね維持している。なお夏季講座は新型コロナウイルスの状況を鑑みて開催しなかったものの、代案として「夏季連続講座」と題し4回の連続講座を実施し、その動画をYouTubeならはくチャンネルで公開した結果、合計4,561回という多くの聴講機会を提供できた。さらに、3年度まで新型コロナウイルス対策として制限していた学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の受け入れを本格的に再開するとともに、奈良市教育委員会及び大分県との連携によってオンライン中継授業を実施することで、小・中学生を主な対象として学習の機会を数多く提供することができ、年度計画を実施できたことを勘案し、左記の評定とした。							
【中期計画記載事項】	講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。							
【中期計画に対する評価】	評定：B							
【判定根拠、課題と対応】	特別展等に関連した公開講座、当館研究員によるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供した。新型コロナウイルス対策として対面での参加人数を制限するなど、安全対策を講じながら各回計画どおり実施した。さらに「夏季連続講座」全4回の動画配信、奈良教育大学との共催による親子ワークショップの動画配信を行うなど、他機関とも連携協力しながらオンラインを活用した新しい学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供								
【年度計画】									
・ I-1-(3)-①-1) (4館共通) ア (九州国立博物館) ア、イ、ウ、キ、ク、ケ									
担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長 田中篤 課長 伊藤信二						
【実績・成果】									
ア 4年度は4回の講演会等を開催し、アンケート結果は93.8%であった。 (九州国立博物館)									
ア 特別展「北斎」では、記念講演会「老境の北斎とその画業—浮世絵風景画史の観点から—」(4月16日 講師：大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)、参加者：140人)を開催し、葛飾北斎を始めとした展示作品への理解を深めた。									
特別展「琉球」では、記念講演会「万国津梁の鐘と尚泰久」(7月16日 講師：田名真之氏(沖縄県立博物館・美術館館長)、参加者：95人)を開催し、琉球文化への理解を深めた。									
特別展「ポンペイ」では記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」(10月15日、講師：青柳正規氏(東京大学名誉教授)、参加者：203人)を開催し、ポンペイとその周辺都市への理解を深めた。									
特別展「加耶」では記念講演会「五世紀・倭の技術革新と加耶」(5年1月29日、講師：西谷正氏(海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授)、参加者：224人)を開催し、倭と加耶の技術・文化交流について理解を深めた。									
イ 大宰府学シンポジウム「大宰府四王院」を行った。									
ウ 作品への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的とし、文化交流展示室で研究員によるミュージアムトーク(実施回数25回、参加者：694人)、ミュージアムホールで特集展示等の講座(実施回数6回、参加者：420人)を行った。また企画展の関連イベントとして、当館ボランティアの協力を得て手話通訳付きミュージアムトークを実施した。(8月27日に2回実施。参加者：1回目16人、2回目34人)アンケートに寄せられた声を参考に、ボランティアとともに、広報やより良い講座運営に努めた。									
キ									
・ 弥生時代の北部九州特有の埋葬方法「甕棺」に関するワークショップを2種類行った(「甕棺に入ろう」参加者：25人、「伊都国王のお葬式」参加者：20人)。「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 甕棺に入ろう」では、甕棺の実寸大レプリカに参加者が副葬品とともに埋葬される体験を提供した。「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 伊都国王のお葬式」では、王が亡くなってから甕棺墓に埋葬され、地中に埋められるまでの一連の流れを、劇をしながら体験するワークショップを開催した。いずれも好評で、全員から高い満足度を得た。									
・ 特別展「ポンペイ」ではワークショップ「天然大理石のモザイクコースター」(11月19日・20日、参加者：195人)を開催し、体験を通して展覧会への理解を深めた。									
ク 第13期福岡歴史観光市民大学「琉球の染織」(7月19日 桑原有寿子)、「装飾古墳と他界観」(10月24日 河野一隆)、「涅槃図入門」(10月31日 森實久美子)に、それぞれ講師を派遣した。									
ケ									
・ 障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるミュージアムへの取り組みの一環として、手話通訳付きミュージアムトーク「鬼瓦のヒミツ」(8月27日、参加者：50人)や、対話型鑑賞ワークショップ「見えると見えない〜対話で楽しむ博物館〜」(9月3日、参加者：11人)、「視覚障害者をつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第1回 バックヤードツアー」(11月10日、参加者：6人)、「視覚障害者をつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第2回 ポンペイ展」(11月11日、参加者：6人)を開催した。									
・ 視覚障がい者向けバックヤードツアーを開催した。通常のバックヤードツアーと違い、当館の建築模型や収蔵庫の壁面模型、免震装置の模型や実物の装置などに触ったり、大型エレベーターなどに乗ったりして楽しめるよう工夫し、高い満足度を得た。(11月27日、参加者：25人、内訳：当事者13人、同伴者12人)									
【補足事項】									
評価指標	項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
	講演会等の満足度アンケート	93.8%	86%	B		-	80.2	92.3	92.2
	講演会等の開催回数(関連指標)	53回	-	-		93	97	19	50
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		いずれの特別展においても、専門的かつ多角的な講演会や講座を実施し好評を得た。とくに特別展「ポンペイ」ではワークショップ「天然大理石のモザイクコースター」や、鑑賞ツアー「視覚障害者をつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー」など社会包摂にも配慮して展示を楽しめる機会を提供した。また、講演会の満足度は90%を超えるなど、好評を得た。以上から所期の目的を完遂したと評価し、B評定とした。							
【中期計画記載事項】									
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		新型コロナウイルスの感染対策を万全にすることを前提に、館内外の多彩な講師陣による展覧会の内容に即した充実した講演会や講座を行った。また特別展「琉球」では沖縄県、特別展「加耶」では韓国の美術館・博物館と連携し、作品選定や展示を行うなど、中期計画に基づく事業を順調に遂行した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1) (九州国立博物館) エ、オ、カ			
担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長 田中篤 課長 伊藤信二
【実績・成果】			
エ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特集展示「御所の器 —公家山科家伝来の古伊万里」の関連イベントとして、講演会&トークセッション「宮廷文化と御所の器」(10月16日 講師：山科言親氏(衣紋道山科流若宗家)、浜中邦弘氏(同志社大学歴史資料館准教授)、橋爪伸子氏(同志社大学非常勤講師)、松浦晃佑、酒井田千明(以上、当館研究員)、参加者：83人)を開催し最新の研究成果を公表した。 ・ 文化交流展示「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」では、記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 - 海の民ムナカタの役割 -」を開催し、沖ノ島祭祀に関する最新の研究成果を公表した(10月8日 講師：亀田修一(岡山理科大学名誉教授)、参加者：86人)。 ・ 文化交流展示室「いつもそばにいた 人と動物のアジア」では、「どうぶつ発見!クイズラリー」を行い、展示室を回り回答用紙に記入して応募すると、動物園への招待状など賞品が当たるイベントを開催し、3,000人の参加があった。 ・ 新春特別公開「国宝初音の調度」の関連イベントとして、きゅーはく☆とっておき講座「国宝 初音の調度について」(5年1月7日、講師：川畑憲子、参加者：80人)を開催した。 			
オ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験型展示室「あじっば」では、新型コロナウイルス感染防止のため「展示鑑賞ゾーン」と「体験ゾーン」に分け、アジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化や異文化交流を紹介した。「展示鑑賞ゾーン」では、郷土人形コレクションの展示を再開し、展示を活用した学習支援として、シルエットクイズ「あじっば de どーこだ」を開発した。また、持ち帰りキット「おうち de あじっば」を3種類追加(合計23種類)し、iPad動画「きゅーはく の 絵本読み聞かせ」を引き続き配信した。 ・ 陶磁器の装飾技法に着目した鑑賞方法を提案するワークショップ「べたべたデコレーション〜貼花に挑戦!〜」を2回行った。展示室を鑑賞後に貼花を実際に体験し、講師が上野焼を解説した。新型コロナウイルス感染防止策として募集人数を制限した(1回目:10人、2回目:9人)が、幅広い年齢層に加え外国の方も参加し、焼物の理解を深める機会を提供した。 ・ 「古代体験イベント きゅーはく女子考古部プレゼンツ 古代の宴へようこそ!」(4月30日 参加者:200人)を開催し、甕棺埋葬体験、真綿からの糸紡ぎ体験などを実施した。 ・ 甕棺埋葬体験ワークショップで活用するための副葬品及び衣装を製作した。副葬品は、伊都国王墓から出土したものに準じ、衣装は、伊都国王の衣装として、吉野ヶ里遺跡にて復元している衣装などを参考に制作した。 ・ 在住外国人をターゲットにした「外国人のための やさしい日本語で 博物館の見学」を実施した。文化交流展示室の作品やあじっばなどを案内し、参加者からは、「よくわかった」「また来たい」と好評を得た。(参加者:15人) 			
カ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大分県と鹿児島県の小中学校(計5校)に対し、リモート授業を行った。特に大分県の学校とは4年度も遠隔操作ロボット「アバター」を活用し、児童生徒は自らの操作でロボットを動かすことで展示室を見学し、研究員と交流した。 ・ 学校貸出キット「きゅうぱっく」は30件・31パックを貸し出し、2,741人の児童生徒が体験した。 ・ アウトリーチ活動「きゅーはくきゅらばん」は県内9か所の学校及び商業施設に出向き、さまざまな博物館体験を提供した。4年度の体験者数は延べ1,082人であった。 ・ 学校教育活動支援事業については県内の小中学校35校を受け入れた。 			
			
遠隔操作ロボットを用いたオンライン授業の様子			
【補足事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験型展示室「あじっば」では10回の展示替えを実施した。入口横ディスプレイとあじ庵では特集展示を行った。 ・ きゅーはくきゅらばんで、主な体験内容としてアジアの民族楽器体験、民族玩具体験、きゅうぱっく体験を提供した。 ・ 学校教育活動支援事業で提供する主な学習プログラムは、博物館ガイダンス、バックヤードツアー、展示室案内である。事前に学校側が希望プログラムを申請し、職員の他、展示解説ボランティア及び館内案内ボランティアが対応した。 ・ 考古・歴史クラブの日ごろの成果を発表する「全国高等学校歴史学フォーラム2022」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として参加校数及び生徒数を7校・各校2人までに制限した。今回で8回目の開催となった本フォーラムには、全国から応募があり選考の結果、福岡県から4校、他県から3校が参加した。 ・ 筑紫地区中学22校との共催による「筑紫地区中学校美術展」を開催し、中学生の美術科授業作品を展示した。 			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 一部体験プログラムの再開や持ち帰りキット及び学校貸出キットの提供、「きゅーはく号」を活用し、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。また、リモート授業や学校教育活動支援事業により、児童生徒に博物館の魅力を紹介することができたことから左記の評定とした。		
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は教員のための講座も3年ぶりに再開し、また学校教育活動支援事業の実施教やきゅーはくきゅらばんの出張回数もほぼコロナ禍前の水準に戻した。多くの学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-2) (東京国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ			
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 金井裕子
【実績・成果】			
<p>ア 3年度に引き続き、来館者案内や特別4室「日本文化のひろば」のサポートに加え、新型コロナウイルスで休止していたハンズオン・アクティビティに対するサポートの一部を再開した（東洋館6室 オアシス、本館19室みどりのライオン [体験コーナー]）。また子ども向けワークショップや講演会のサポート、月イチ！トーハクキッズデーにおける各イベントのサポートは、感染症対策を施し、感染状況を見ながら行った。</p> <p>イ 点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、センサリーマップの調査準備のほか、対面及び情報発信等による研修を行った。</p> <p>ウ 3年度より再開準備を行っていたグループも含め、屋外で行うガイドツアー5グループすべてとワークショップを行う1グループが再開し、参加人数の縮小やマイク使用など、感染対策を講じた上でガイドツアーを実施した。「応挙館茶会」は、飲食を伴わないお点前のデモンストレーションを紹介する形で再開したほか、コロナ禍以前は展示室内で実施していた「英語ガイド」を、新たに屋外でのガイドツアーに手法を変更して実施した。</p> <p>展示室内でのガイドツアーを行っていた9グループのうち、英語ガイドを除く8グループは、感染状況拡大防止のため、展示室でのガイドではなく本館地下教育普及スペースや大講堂などでのスライドトークを試験的に実施した。またその準備として、のべ38回におよぶスライドトーク研修、兼練習会を実施した。また3年度に引き続き、たんけんマップ等をウェブサイト上で公開した。各グループが、定期的にボランティア活動室を使用して勉強会の実施等を行えるように設定し、モチベーションの維持を図った。</p> <p>また、「留学生の日」における英語ガイドや、「博物館でアジアの旅」「博物館でお花見を」にあわせた樹木ツアー等、「月イチ！トーハクキッズデー」における子ども対象のワークショップや、グループ協同でのガイドツアーなど、各グループによる工夫が見られた。</p> <p>エ コロナ禍により、職員によるスクールプログラムの対面実施を延期したことから、ボランティアによるスクールプログラムについても実施を見送ったが、職場体験は日数・人数など縮小の上で再開し、ボランティアによる職場体験のサポートを再開した。</p> <p>オ 一般来館者に向けたボランティアデーを3年ぶりに開催した。屋外でのガイドツアー等のほか、屋内での各グループのスライドトーク、5年度新規ボランティア希望者に向けた説明会及び通常のボランティア活動（基本活動）の様子を見学するための館内ツアーを実施した。</p>			
			
たても散歩ツアーの様子			
【補足事項】			
東京藝術大学大学院インターンは、昨年はすべてオンラインによる実施であったが、本年度は対面を再開し、本館地下教育普及スペースでのスライドトークの形で実施した。			
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応を実施した。新型コロナウイルスの影響拡大により休止していたガイドツアーのうち、屋外はすべて再開し、屋内は、歩き回らずディスタンスを維持しやすいスライドトークとして段階的に実施した。また、各種イベントにあわせ、実施方法や内容を工夫して実行することができた。以上のことから、B評定にした。		
【中期計画記載事項】			
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	中期計画の2年目として、ボランティア活動を安全に実施する体制をとったうえで、ボランティア活動の活性化と来館者への学習機会の向上を目指し、手法を工夫したうえで、休止していた活動についても段階的に再開した。またボランティアの自主性を生かし、各種イベントでのサポートも積極的に行われている。以上のことからB判定にした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-2) (京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 教育室長 永島明子
【実績・成果】 ア ボランティアによるハンズ・オン教材を用いた対話形式の鑑賞案内である「京博ナビゲーター」は、新型コロナウイルスの影響で引き続き休止したが、感染症対策上必要な物品の購入や募集チラシの作成など、活動再開に向けての準備を進めた。 イ 収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。(11人) ウ 「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した(21回)。 ・スクーリングに加え、文化庁の助成を受けて館外での研修(3回)を実施した。 ・「文化財ソムリエ」(21人)が以下の活動を行った。 ①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」(7回・501人) ②記者体験in京都国立博物館(1回・60人) エ 「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用した。(8人)			
			
文化財ソムリエを対象としたスクーリング			
【補足事項】 ウ 「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティア21名に、当館研究員が21回のスクーリングを実施した。文化財そのものや、教育普及の手法について講義するとともに、授業案や教材の作成に際して議論を促すなど、指導・助言に努めた。小中学校への訪問授業は、学校と緊密に連携し、感染症対策を講じて実施した。また、4年度は「誰もが楽しめる鑑賞の授業をつくる(多様な見え方・感じ方)」をテーマに、「文化財に親しむ授業」の充実を図るべく、文化庁の「令和4年度Innovate MUSEUM事業」の助成金交付を受け、館外での研修も実施した。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍で実施回数が減少していた「文化財ソムリエ」による訪問授業を、学校と緊密に連携して感染症対策を徹底させることで、コロナ禍以前の水準に戻すことができた。また、文化庁の補助金制度を活用して支援学級での授業や色覚の多様性に配慮した授業の実施に向けて研修を実施できた。活動を休止していた「京博ナビゲーター」についても、再始動に向けて各種準備を進めることができたため、Bと評価する。		
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に続き、4年度も新型コロナウイルスの影響で活動を大きく制限されたが、「文化財ソムリエ」については訪問授業の回数をコロナ禍以前の水準に回復させており、文化庁の補助金制度を活用して、今後の活動に備えた基盤づくりを行うことができた。また、休止していた「京博ナビゲーター」についても、5年度での活動再開に向けて各種準備を進めることができたため、Bと評価する。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】	・ I-1-(3)-①-2) (奈良国立博物館) ア、イ、ウ		
担当部課	教室	事業責任者	教室長 谷口耕生
【実績・成果】	<p>ア・4年度は、学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を30校、2,318人に対して実施した。ボランティアはクイズシートの配布や児童・生徒の誘導等を担当する等、新たな方法で活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市と連携し、夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」を7月28日と7月29日の計2日間実施した。ボランティアが講座の実施を担当した。計2日間の参加人数は110人だった。 ・7月16日から8月28日にかけて開催した子ども向けの展覧会わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」では、開館日の毎日、ボランティアが会場内でワークショップやワークシートの配布、ワークシートのクイズの答え合わせ等の活動を行った（計39日間）。 ・11月より、地下回廊の一角にあるワークショップスペースにて、ボランティアによるワークショップの実施を11月より開始した。ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」では仏像レプリカを活用し、ボランティアは服の着つけ実演や、参加者が着つけ体験をする際の補助を担当した。 ・4年度は庭園と茶室のガイド活動を再開した。庭園・茶室の改修後に庭園と茶室を一般に公開し、それにあわせてボランティアによる定点ガイドを行った。計22回実施し、庭園入場者数は計3,298人だった。 ・講座のサポート活動を22回実施した。 <p>イ・4年度も引き続き、大分県や奈良市と連携し、大分県内の小・中学校や奈良市立小学校を対象に、オンライン中継授業を実施した。各学校の教室となら仏像館をオンラインでつなぎ、ボランティアが仏像について解説した。実施回数は計18回、参加者は574人だった。また、5年1月30日に奈良市と大分県国東市の小学校5年生（計43人）を対象にオンライン交流学習を2回実施した。</p> <p>ウ・コロナ禍での対応のため、主にウェブ会議システムを利用する形式あるいは動画配信形式にて、ボランティア研修を計30回実施した。そのうち、活動に関する研修は4回、特別展等の展示に関する研修は26回それぞれ実施した。</p>		
			
	オンライン中継授業の実施風景		
【補足事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場内で実施したワークショップの実施回数は78回で、見学者数は2,709人、実際に着付けてみる体験の参加者数は502人だった。 ・ボランティア活動のための練習を計28回実施した。 		
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度もボランティアが展示案内等を担当する形で、大分県の小・中学校や奈良市の小学校を対象としたオンライン中継授業を計18回実施する等、ボランティアが主体となって行うオンラインプログラムを継続して実施することができた。また、ボランティアが実演等を担当するワークショップを新たに考案し、夏に開催した子ども向けの展覧会以降、継続的に実施した。さらに4年度は動画配信形式にてボランティア研修を計30回実施する等、ボランティアの資質向上にも努めた。よって、年度計画を無事に遂行できたと考え、B評価とした。今後もボランティアが主体となって実施する教育普及プログラムを新たに展開し、ボランティア活動の充実を図る。		
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は、学校団体を対象としたオンライン中継授業を計18回実施したことに加え、対面型のワークショップ活動を新たに実施する等、様々な形式で教育活動を展開できた。また、奈良市内の近隣の学校のみならず、大分県の小中学校に対してもオンライン中継授業を定期的に行ったことで、遠隔地の学校への教育普及活動のノウハウを蓄積することができた。さらに、ボランティア研修を計30回実施する等、ボランティア活動の支援を継続して行い、生涯学習に寄与できたことから、4年度も中期計画を遂行できたといえる。 今後は、ボランティアによるワークショップの充実化を目指すほか、庭園ガイドの実施回数を増やすなど、ボランティア活動の更なる充実化を図り、来館者サービスの向上に努める。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-2) (九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	交流課	事業責任者	課長 田中篤
<p>【実績・成果】</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していたボランティア活動を4年度から再開した。十分に感染防止対策を行い、さまざまな博物館活動を補助した。</p> <p>ア 館内案内・展示解説・バックヤードツアーといった来館者対応だけでなく、展示資料整理・博物館周辺の環境美化といった裏方の活動に至るまで、各部会が創意工夫を凝らしながら企画・実施した。</p> <p>イ 研究員による専門講座を開催し、ボランティアとしてのモチベーションの向上とスキルアップを図った。</p> <p>ウ 「イベント・サポート部会」の他、有志で結成した「グループ活動」メンバーが、計5回のボランティア主催ワークショップを開催した。</p> <p>エ 学校教育活動支援事業の一部プログラムをボランティアが担当した。</p>			
		 <p>研究員による専門講座 (施設案内研修)の様子</p>	 <p>ボランティア主催ワークショップのポスター (『あつまれ! 九博の杜』グループ)</p>
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの総数243人(第5期ボランティア109人、第6期ボランティア134人)。週の活動回数、1日の活動時間、活動場所等について制限しながら、活動を再開した。感染状況に配慮しつつ段階的に制限を解除し、来館者案内では一度に案内する人数の上限や実施時間などを記した案内マニュアルを作成し、全員に周知徹底を図った。 主な専門講座として、館長講話、「展示案内研修(古文書、仏像、やきもの)」「施設案内研修(地下施設、免震層、バックヤード、修復施設他)」「環境研修(博物館科学、九博周辺の自然環境)」を行った。 4年度のボランティアグループ活動は以下4つである。 <ul style="list-style-type: none"> ①ワークショップデザイン…オリジナリティあるワークショップを企画・運営 ②さげもん…福岡県の伝統手芸作品を製作するワークショップ ③『あつまれ! 九博の杜』…九博の杜をテーマにしたセミナーやワークショップ ④古筆研究会…万葉仮名からひらがなへの変遷を学び、古筆遺品による和歌集を読む 学校教育活動支援事業でボランティアが担当するプログラムは「博物館の役割について(講義)」「バックヤードツアー」「展示室案内ツアー」の3つである。事前研修では研究員から博物館の役割について受講し、話し方スキルの向上を目的とした演習を行った。 			
<p>【年度計画に対する総合評価】 評定：B</p>		<p>【判定根拠、課題と対応】 4年度から加入した新規ボランティアからは、来館者案内について対応可能な言語の掲示や来館者のリクエストに合わせたルート案が豊富に提案され、それを実施したことで来館者から好評を得た。特にボランティアの自主運営によるイベントや研修は、職員とボランティア、またボランティア同士が密に連携できたことで充実した内容となった。このことから年度計画を達成したと判断し、左記の評定とした。</p>	
<p>【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。</p>			
<p>【中期計画に対する評価】 評定：B</p>		<p>【判定根拠、課題と対応】 当館でのボランティア活動を終えた者が他施設でボランティア活動を始めたり、新たに別のボランティア団体を立ち上げたりする動きが出てきている。このことから地域の生涯学習活動の拠点として、文化ボランティアの育成に寄与できているものと判断し、左記の評定とした。</p>	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
	【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア ・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア ・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館) ア、イ		
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 鈴木みどり
	【実績・成果】 (4館共通) ア 加入校数 61 校 (内訳 法人:2、大学:51、専門学校:2、学部:6) が本制度を利用し、30,239 人の学生、1,450 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、展覧会ごとに設定し実施した (当館は特別展「東福寺」で実施)。 (東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館) ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、引き続き、4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 (東京国立博物館) ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について講義する「博物館セミナー」、及びキャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど、博物館実務全般について講義・実習する「博物館学講座」の開催を予定していたが、3年度に引き続き、4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面、接触を伴う「博物館学講座」は実施を見送った。「博物館セミナー」については、参加を希望するキャンパスメンバーズの学生が会場の定員数を大幅に超えていたため、多数が視聴できるように、「博物館の運営」「特別展の仕組み」「総合文化展の仕組み」「教育普及活動」の4本について動画を撮影し配信する、オンライン形式で実施した。 イ 東京藝術大学大学院インターンシップを1名受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常対面で行うガイダンス・検討会・リハーサルを適宜オンラインも利用し、展示室内でのギャラリートークを変更し、本館地下みどりのライオンでスライドトークを実施した。		
	【補足事項】		
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた活動が制限されたが、オンラインの活用や、開催場所と方法を変更して実施するなど、新たな方法を模索し、感染予防対策を講じて実施できた。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。		
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を予定していたが、3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限された。しかし、その中でもオンラインにより多数の参加を可能にし、対面の際には実施方法の変更をするなど、「新しい生活様式」に対応した連携事業のあり方を模索して実施できた。こうした新しい手法の利点も加味しつつ、感染終息後を見据えた事業展開を図り、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。		

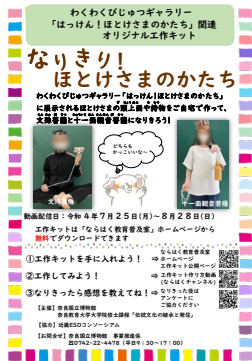




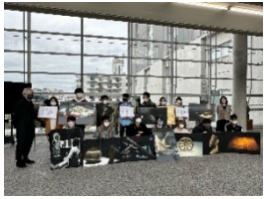
「博物館セミナー」動画

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 上席研究員 浅湊毅
【実績・成果】 (4館共通) ア <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンパスメンバーズへの入会の新規勧誘を行うと同時に、加入校 34 校との連携を継続して行った。 ・ 加入校増加に向けた営業の結果、新規に 2 校が加入した。 ・ 加入校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。 ・ キャンパスメンバーズデーとして、加入校の特別展無料観覧日を設けた。 ・ 当館を会場として加入校が中心となり、落語会を開催した。 (京都国立博物館) ア 京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕(考古学・陶磁)、山川暁(染織)、浅湊毅(彫刻)、大原嘉豊(宗教絵画)、永島明子(漆工)の 5 人が大学院生(修士・博士課程在学者)に対して、京都国立博物館で実際の作品を取り扱いながら、対面方式で文化財に関する講義を行った。受講学生は 18 人(延べ 19 人)である。また、所属する修士課程 1 人・博士後期課程 2 人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。			
【補足事項】 (4館共通) ア <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンパスメンバーズの加入を案内するチラシを作成し、未加入校への広報活動を実施した。 ・ 特別展「最澄と天台宗のすべて」キャンパスメンバーズ向け講演会(5月7日 講師:保存修理指導室長 大原嘉豊)(1回・81人) ・ 特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」キャンパスメンバーズ向け講演会(8月9日 講師:企画室研究員 井並林太郎)(1回・82人) ・ キャンパスメンバーズデー(8月9日・102人) ・ 施設利用の割引(加入校の学生による落語会の施設利用) 			
【年度計画に対する総合評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 <p>キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるように広報活動を行った。また、新たにキャンパスメンバーズデーとして、加入校が特別展を無料観覧できる日を設けるなど特典の充実を図り、関係性の構築に努めることができた。また、新規で加入してもらえる学校を模索するために様々な営業活動を継続的に行い、新たに2校が加入した。</p> <p>また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことで、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。</p>		
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 <p>キャンパスメンバーズの加入校数は安定しており、大学等の連携もできているため、中期計画を順調に遂行しているといえる。今後はより多くのキャンパスメンバーズ加入校の学生に当館のサービスを利用してもらえるように広報活動により注力していく予定である。また、引き続き地域の未加入の大学に加入してもらえるように営業活動を積極的に行っていく予定である。</p> <p>京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財にかかわる人材育成に貢献していくこととする。</p>		



キャンパスメンバーズ講演会

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア、(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア、(奈良国立博物館) ア			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア キャンパスメンバーズの勧誘及び更新を進め、入会校数は3年度より1校増の27校となった。加盟校とは連携を継続した。			
(東京・奈良・九州)			
ア インターンシップ受入については継続しているものの、4年度の希望者はなかった。			
(奈良国立博物館)			
ア			
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科に学芸部研究員1人を派遣し、講義を行った。受講生は前期2人であった。また、奈良女子大学を含む奈良国立大学機構の奈良カレッジズ連携推進センターの連携事業に参画し、学問祭においては館長の講義の実施、また産地学官連携プラットフォームの立ち上げの協力など連携を進めている。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣し、講義を行った。受講生は通期2名であった。 			
【補足事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップとして、キャンパスメンバーズ加盟校である奈良教育大学と連携して作成した動画「なりきり！ほとけさまのかたち」を4本、館のYouTube公式チャンネル「ならはくチャンネル」で配信。配信した4本の動画は合計で約2,000回再生された。 ・各展覧会（大安寺のすべて展、中将姫と當麻曼荼羅展、春日大社若宮国宝展）において、加盟校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を実施し、それぞれ43名、49名、46名の参加があった。 			
			
なりきり！ほとけさまのかたち		キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
<p>評価：B</p>		<p>3年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加盟校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図るワークショップ動画を配信し、好評を得た。また、加盟校の学生及び教職員を対象にした特別鑑賞会を実施し、各展覧会や館の活動に対する参加者の理解を深めることができた。</p> <p>大学との連携協定における講義及び講座の実施など、教育機関との地域連携を引き続き進めることができ、計画を着実に実行した。</p>	
【中期計画記載事項】			
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
<p>評価：B</p>		<p>3年度より開始したキャンパスメンバーズ加盟校対象の特別鑑賞会を今年度も継続し、多くの学生・教職員の各展覧会への理解度を深めることができた。キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実及び機会の提供を図っていく。</p>	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア ・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア ・ I-1-(3)-①-3) (九州国立博物館) ア、イ 			
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長 木川りか 課長 田中篤 課長 執行正一
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。 (4年度における加入校内訳: 大学12校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)			
ア 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文化財保存修復施設を利用した地域の大学との連携を図る短期インターンシップは中止した。 (九州国立博物館)			
ア 博物館実習生を受け入れ、実習を実施した。 実施期間: 8月16日～8月19日、8月21日～8月22日(6日間) 内容: 博物館の各機能に関する講義、実習 博物館実習生を10大学から14人受け入れた。 (うちキャンパスメンバーズ校は4大学7人)			
イ 放送大学の面接授業を実施した。 11月24日～25日(2日間)、19人受講 講師8人			
			
博物館実習風景			
【補足事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・修理技術研修は、実技が主になり密な接触が避けられないため、新型コロナウイルスの影響のため4年度は実施しなかった。 ・大学との連携事業として、「撮る博物館」を実施した。 実施期間: 11月15日～20日(6日間) 内容: 主に若者に向けた文化交流展示室の広報を目的として、九州産業大学の学生が文化財等を撮影し、写真パネルをエントランスホールに展示するとともに、館職員の投票による優秀作品を選定し表彰した。 その他、「博物館浴」といった九州産業大学の主導のイベントも実施した。 「博物館浴」実施期間: 5年1月5日～6日(2日間) 			
			
「撮る博物館」 表彰式風景			
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定: B	短期インターンシップは新型コロナウイルス感染拡大防止のため3年度に引き続き中止したが、博物館実習では、10大学から14人を受け入れ、計6日間実習を行った。さらに、放送大学の面接授業は、新型コロナウイルスの影響を考慮して例年の半数(19人)で実施し、感染状況を見据えつつ年度計画を達成した。		
【中期計画記載事項】			
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定: B	中止した事業はあったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、適切な人数及び日数において博物館実習を実施した。さらに、放送大学の面接授業も人数を制限しつつ、3年度に引き続き実施した。中期計画を順調に遂行し、今後は感染拡大防止に配慮しつつ活動規模の拡大に努める。		


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 和田浩
【実績・成果】			
1) 研究発表実績 修理技術に関する研究成果を公表し、修理技術者との情報共有を行った。			
・ 「磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の剥離に関する実験」(文化財保存修復学会第44回大会) 6月18日～19日			
・ 多様な文化財の診断および修理検討のためのCT活用事例(2022日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学装備の活用及び展望」) 10月28日			
2) 国内外の保存修復分野に携わる人材への技術的支援等 有形文化財の修理に関する人材を技術的に援助する取り組みを行った。			
・ 地域文化財の修理に関する相談(郡山市文化スポーツ部文化振興課) 6月13日			
・ 水損した複合材料資料(民俗)の安定化処置に関する相談対応(NPO文化財保存支援機構) 11月24日			
・ 保存修復分野のキャリアパスに関する講義(東京芸術大学大学院 文化財保存学専攻保存修復工芸研究室) 7月14日～22日			
・ 日本彫刻修理に使用する材料や道具に関する意見交換(Museum of Fine Arts, Boston /Abby Hykin) 11月28日			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
<p>評価：B</p>		<p>修理技術に関する研究成果を学会等で発表することにより、国内外で修理に携わる人材へ適切な情報共有を実施できた。研究成果及びこれまでの経験から得られた知見を基に、国内外の修復分野に携わる人材への技術的支援を効果的に実施できた。これまで、地域の文化財修復分野に携わる人材と具体的な修理技術情報の交換や支援をあまり実施できていなかったところ、対応できたと考えている。</p>	
【中期計画記載事項】			
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
<p>評価：B</p>		<p>保存修復分野の技術は伝統技術的な要素が大きく、特に国内では客観的な視座から研究を進め、成果を広く公表することが難しい状況下で、中期計画の2年目として十分な研究実績を上げることができた。今後は保存修復分野に携わる人材の中で、どの段階のキャリアの人材の育成を、どのように支援していくのか、ある程度の絞って活動を継続する必要があると考えている。</p>	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 大原嘉豊
【実績・成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年は、4月及び奇数月に文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修理状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月までは一部職員のみによる監督指導にとどめ、11月以降は通常通りの体制で実施した。また、2か月に一回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回7回、会議7回) ・ 当館開催の特別展と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計3回・207人) <ul style="list-style-type: none"> 特別展「最澄と天台宗のすべて」(4月18日・77人) 特別展「観心寺と金剛寺」(8月8日・65人) 特別展「茶の湯」(10月17日・65人) ・ 新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会を開催した。(9月9日・14名) ・ 文化財修理を学ぶ大学院生(3人)のインターンシップ実習を8月8日～9月16日に実施するとともに、後日報告会をオンライン形式にて開催し(出席者40人)、報告書を作成した。 ・ 博物館における、保存科学・文化財修理の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。(計35回・142人) <ul style="list-style-type: none"> 財務省・文化庁(6月16日・11人) 宮内庁 京都事務所、保存工事事業委員会(8月8日・7人) 参議院議員運営委員会派遣委員・文化庁(9月12日・20人) 他47人 			
【補足事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財保存修理所の巡回に際して、技術者より文化財の修理状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。新型コロナウイルス感染状況に鑑み、4・5・7・9月は参加職員の人数を制限して実施し、11月以降は通常通り全職員を参加対象として実施した。 ・ 文化財修理を学ぶ大学院生をインターンシップ生として受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。 ・ 保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。 ・ 3年度に続いてインターンシップ報告会をオンライン形式で開催したことにより、より多くの教員・学生の参加が可能となった。 		 <p>保存修復を専攻する大学院生のための研修会</p>	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染予防対策を実施し、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会、インターンシップ実習を開催した。元年度より中止が続いた事業の再開に漕ぎつけたことは、教育普及・人材育成の点において大きな成果であったといえる。所定の事業を遂行し、年度計画を達成することができた。	
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会及びインターンシップ実習を滞りなく開催し、保存科学・文化財修理の専門家及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら実施できたことは、中期計画の2年度として順調に計画を遂行できていると言える。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】・I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 荒木臣紀
【実績・成果】 (4館共通) ・保存修理技術者に対する研修会を実施した。 ・海外から3組の修理技術者が来館し、保存修理指導室職員と修理に関する意見交換を行った。			
【補足事項】 ・文化財保存修理所技術者研修会 5年2月16日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。 ・米国ボストン美術館、フィラデルフィア美術館、英国大英博物館の修理技術者が来館し刺繍の修理方法、修理前などに行う科学調査の役割と可能性、実際のX線撮影方法について意見交換を行った。			
			
修理技術者を対象とする研修会の様子			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の招聘事業は行っていないが、海外から3組の修理技術者が来館し、保存修理指導室職員と修理や調査に関する意見交換を行った。 また、3年度は実施されなかった文化財保存修理所技術者研修会が4年度は実施され、修理技術者を対象に研修を行うことができた。さらに、問い合わせの対応や修正報告書による成果公表など保存修理従事者が情報を取得できる環境は例年通り整えており、新型コロナウイルス渦においても多様な方法で人材育成に寄与することができた。以上の理由から、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。		
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 一部の国からは来日しやすくなったため、それらの国からの修理所見学、修理に関する意見交換を行うことができた。また、修理中の作品の蛍光X線分析やX線CT撮影、X線撮影を技術者と保存科学者が一緒解析するといった作業を行ったことで文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与することができ、中期計画を着実に遂行しているため、左記の評価とした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 (4館共通) 文化財保存普及のための講座・研修については、3年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実施を中止したのもあったが、関係者や専門家を対象とした行事や研修会は、感染対策を徹底した上で実施することができた。			
【補足事項】 ・「漆工修理技術者研修会（試行第1回）」 開催日：12月9日～10日 主催：文化庁文化財第1課 共催：当館 協力：(同) 大西漆芸修復スタジオ 当館修復施設にて修理中の国宝婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用）のうち、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・七宝繫）、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・龍膽七宝繫）、胡蝶の蒔絵調度・書棚の3基を対象に、漆工の指定品修理実績のある全国の修理技術者や復元模造製作技術者約20人が参加する、専門的研修を実施した。文化庁及び当館修理技術者から、修理や科学的調査に関する報告と、作品の熟覧を行い、漆工品の修理技術や材質・技法についての経験や知見を共有した。 ・「寒糊吹き」 開催日：5年1月20日 協力：修理工房宰匠（株） 寒糊吹きは書画の修理に必要な不可欠な古糊（小麦澱粉糊（新糊）を約10年間、涼暗所で寝かせて接着力を弱めた糊）の元となる新糊を炊く作業で、文化財修理の意義を周知する機会としてきた。2年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から参加者を館内職員に限定し、マスク・手袋の着用など感染対策を十分行った上で実施しており、4年度も同様に実施した。			
			
		漆工修理技術者研修会	
			
		寒糊吹き	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した事業についても、再開に努めた。「寒糊吹き」は感染対策を行った上、館内職員のみにて実施した。また、修理作品を通じて修理技術者等が高度な意見交換及び情報共有を行える文化庁による新たな研修会を当館で開催したことで年度計画を達成した。		
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実技を主とする研修事業は実施を中止した。しかし、保存・修理に関わる人材育成を継続していくため、修理技術者等と連携しながら、対応可能な内容での研修を検討・実施し、中期計画に沿って事業を遂行した。		







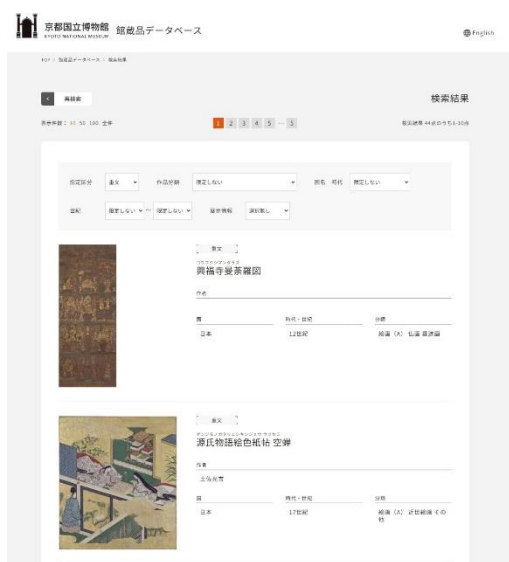












中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-①-5) (東京国立博物館) ア、イ 			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア 会員総数は14,561件、3年度(9,881件)の1.5割増となった。			
イ 賛助会会員を対象として、11月21日(月)に、特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」の貸切観覧と事業報告会、特別講演からなる賛助会感謝デーを実施した。また、本特別展の会期延長に際しては、事前予約不要の無料観覧を実施した。			
ウ みずほプレミアムクラブ会員向けにオンラインと実参加の同時イベントを企画、12月23日(金)に実施し、認知度向上に努めた。			
エ 特別展「東福寺」において、5年3月13日(月)に、三菱商事株式会社の協力による障がい者内覧会を実施し、社会貢献活動に協力した。			
(東京国立博物館)			
ア 賛助会感謝デーの実施や賛助会団体会員向けのイベントを実施し、継続的な支援者獲得の促進を図った。			
イ 上野文化の杜新構想実行委員会として、5年1月24日(火)に東京藝術大学等と連携しワークショップを開催した。また、JR東日本と協同し黒田記念館等をルートに含むツアーを実施し、館の認知度向上に努めた(5年2月22日(水)、3月12日(日)、19日(日))。			
イ 上野の山文化ゾーンフェスティバルに協力し、上野地区各施設との連携を強化した。			
【補足事項】			
(4館共通)			
ア 賛助会会員件数608件の内訳は個人543人(プラチナ9人、ゴールド53人、シルバー481人)、団体65団体(プレミアム1団体、特別19団体、維持45団体)である。			
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：B	<p>現行の会員制度へ移行した3年度には、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、臨時休館や特別展の開催に影響があったことにより、会員数が2年度比2割減となったが、4年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、実参加も含めた会員向けの企画や支援者獲得のための活動を再開できたことから、増加に転じた。また、企業等との連携により賛助会等の制度について認知度を高めることができた。</p>		
【中期計画記載事項】			
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：B	<p>会員数は特別展の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、2、3年度には会員数が減少したが、4年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、実参加も含めた会員向けの企画や支援者獲得のための活動を再開できたことから、4年度になり増加に転じた。博物館の支援基盤の充実を図るため、今後も引き続き支援者の増加に努める。</p>		

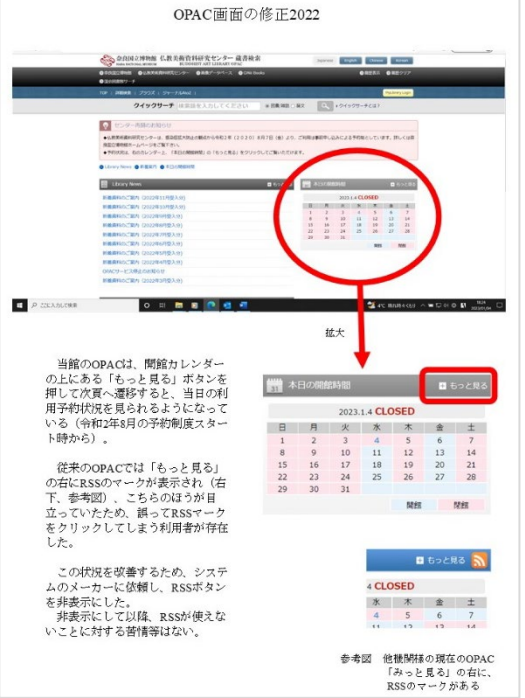
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ、(京都国立博物館) ア、イ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 部長 尾野善裕
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア 「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少傾向にあったが、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた結果、3年度より会員数は90名増加した。			
イ 当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、3年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。			
ウ 3年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトへ参加した。			
エ 企業（キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス等）から、展覧会事業について各種支援（協賛・協力）を得た。			
(京都国立博物館)			
ア			
・ 一般社団法人清風会が行う鑑賞会（4回）・見学会（3回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。			
・ 伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムを実施した。			
イ			
・ ミュージアムパートナー制度では、新型コロナウイルスの影響による厳しい経済状況下においても大多数のパートナーから継続して支援を得られた。			
・ 文化財保護基金では、企業等からの寄付金を引き続き受け入れ、連携を図った。			
【補足事項】			
(4館共通)			
ウ			
・ 三菱商事株式会社関西支社と共同で、「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。			
・ 近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。			
			
		タクシーのリアステッカー	
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		<p>企業等との連携では、「障害のある方のための特別鑑賞会」の開催やタクシーのリアガラスへの展覧会広報ステッカーの掲出など、複数の企業との間で多面的な事業展開ができた。特に、障害者が気兼ねなく鑑賞できるよう休館日に設定した特別鑑賞会は、参加者の満足度も高く、館の認知度向上にも大いに資するところがあったため、今後も継続を予定している。</p> <p>総じてコロナ禍の影響が強く残る中で、ミュージアムパートナーの支援者は微減したものの、3年度より意識的に展開してきた広報活動が実を結び、「国立博物館メンバーズパス」と博物館支援団体である清風会の会員数は増加傾向にある。以上、概ね年度計画を順調に達成しているため、全体としてはBと評価する。</p>	
【中期計画記載事項】			
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		<p>コロナ禍で、博物館への支援を受けにくい状況が続いているが、ギフト開発やタクシーステッカーでの展覧会広報など従前の事業を維持しただけでなく、障害者向け特別鑑賞会では開催日の調整など、新たな取り組みを行い高い評価が得られた。ミュージアムパートナーの支援者は僅かに減少したが、積極的な広報展開により「国立博物館メンバーズパス」と博物館支援団体である清風会の会員数は増加傾向にあるため、全体としてはBと評価する。</p>	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア 入会案内チラシをイベントごとに配布し、賛助会員の新規獲得を図った。			
イ 賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象として、研究員による解説付き特別鑑賞会を実施した。			
ウ 大手百貨店と連携してコラボレーションギフトを製作し、自己収入の増加と当館の認知度向上を図った。			
エ 展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。			
(奈良国立博物館)			
ア 協賛企業等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。			
イ 特別展の実施に際し企業等からの協力金を得て、特別展の充実を図った。			
ウ 賛助会員127(特別支援会員:2団体、特別会員7団体、一般会員(団体):15団体、一般会員(個人):103名)となり、昨年度より6件増加した。			
エ・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント、スタンプラリー、入館料割引等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。			
・企業と連携し、不用品の査定換金額が当館に寄附される取り組みを継続した。			
【補足事項】			
・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、当館の認知度向上に繋がった。			
・奈良市と連携し、ふるさと納税の返礼品として当館の過去の特別展図録を提供した。			
・奈良マラソン実行委員会(奈良県ほか)と連携し、奈良マラソン2022ポスターのメインビジュアルに、当館の収蔵品である「伽藍神立像(走り大黒)」が起用されたほか、マラソン参加者に対しては当館窓口でビブス(ゼッケン)を提示することで、特別展・名品展(平常展)の入館料割引を行い、誘客と認知度向上に努めた。			
			
ふるさと納税返礼品		奈良マラソンポスター	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：B	プレミアムカード会員への賛助会入会チラシを配付、また特別展の協賛企業に賛助会加入の提案をする等、賛助会会員の増加に努めた結果、昨年度比6件の増加に繋がった。 さらに、マラソンやスタンプラリー協力等自治体や商店街等との連携事業を実施し、着実に計画を実施できているためB評価とした。		
【中期計画記載事項】			
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：B	新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、特別鑑賞会の開催、刊行物の送付などを継続し、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上、新規顧客の獲得に繋がっていることから、中期計画を順調に遂行できている。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-①-5) (九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長 田中篤 課長 野田智子 課長 執行正一
【実績・成果】 (4館共通) ア 友の会及びメンバーズプレミアムパスについて、ウェブサイト、リーフレット等による広報を行い、会員数の拡大に努めた。 イ 友の会会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。賛助会団体会員を対象とした特別展特別観覧会について、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため開催せず、代わりに日時指定のない招待券を送付した。 ウ ・ JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特集展示や広報番組を告知した。 ・ サッカー・ワールドカップ開催記念「アジア代表2022トークショー」をミュージアムホールで開催した(11月2日 日比野克彦氏(東京藝術大学学長)、田嶋幸三氏(日本サッカー協会会長)、岡田武史氏(日本サッカー協会副会長))。また、ワールドカップ・アジア予選出場各国をイメージして陶芸ワークショップ「WORLD PEOPLE CUP」で制作された作品をエントランスホールに展示した。これらを若い世代が来館するきっかけとし、認知度の向上を図った。 エ 協賛企業の協力により、広報活動の充実を図ることができた。 (九州国立博物館) ア 賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。4年度の新規加入は、個人7人、団体3団体であった。 イ 「九州国立博物館を愛する会」の会員を対象とした特別観覧会を実施した。また、会報誌の執筆に協力した。 ウ 支援団体からの財政的な支援により、空港や主要な駅へ広告を掲出することができた。 エ 特別展「ポンペイ」の広報の一環として、「炭化したパン」をイメージした黒いパン(「ポン・パン」)を障がい者が作る「まごころ製品」として販売した。好評のうちに完売し、展覧会のアピールと障がい者の自立支援を共に実現した。			
<div data-bbox="1082 898 1417 1128" data-label="Image"> </div> <p>特別展「ポンペイ」に ちなんだパン販売</p>			
【補足事項】 (4館共通) ウ 西日本新聞社及び(公財)九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で平成28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つ「博多祇園山笠」の飾り山を開館以来連続してエントランスに展示した。 (九州国立博物館) ア 賛助会員(特別会員(個人)5人、維持会員(個人)29人、プレミアム会員(団体)1団体、特別会員(団体)2団体、維持会員(団体)18団体)			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域と連携した広報活動やイベントを実施し年度計画を達成した。今後も、広報の充実を図り、支援者増加を図る。		
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各種会員制度を継続した。また、博物館支援者増加を図る取り組みを実施した。さらに、障がい者施設の協力を得て当館の認知度向上と共に障がい者の自立支援に寄与した。以上から、中期計画を円滑に推進したと評価し、B評定とした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1) 有形文化財に関する情報の発信 2) 資料の収集と公開																		
【年度計画】	<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通) ・ I-1-(3)-②-2) (東京国立博物館)ア、イ、ウ 																		
担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長 村田良二																
【実績・成果】	<p>1) (4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った(約 63,379 追加)。さらに、「作品種別」を整備し検索に利用できるようにした。 ・ 「e 国宝」において、1 件を追加し、既存解説文の見直しを継続して行った(解説文更新 89 件)。 ・ 「ジャパンサーチ」と ColBase のデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図れる仕組みを構築した。 <p>2) (東京国立博物館)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,820 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。 ・ 画像検索システムに画像データ 19,873 件を登録し、既存データ 1,839 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。 ・ 漢籍 3 冊 (136 カット) のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。 ・ 資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 2,172 人) 新型コロナウイルスの影響により、来館者数はコロナ前より減少しているが、非来館の複写やレファレンス依頼は増加した。 ・ 貴重書用保存箱を 50 箱作成し、10 冊の補修を実施した。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。 ・ protoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・国立文化財機構内各機関発行雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 3,811 件作成した。 ・ 国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができ、3 年連続で国立国会図書館より御礼状賞状を受領した。(一般公開 138 件、新規登録 3 件、被参照数 81,255 件) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILL (図書館間相互利用) サービスによる文献複写サービスの受付 (館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。またコロナ禍において、NACSIS-ILL 非参加館からの依頼も増加し、対応を行った。 ・ 特別展開連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。特に創立 150 年記念特別展に際しては、閲覧室内にて通常の関連図書コーナーでは戦後の特別展入場者数ランキング上位 100 位までの図録を順位順に展示し、加えて展示ケースでも、戦後まもなくの「国立博物館」時代、まだ国立美術館が開館する以前で近現代の西洋絵画も当館で展示していた時代の、当時大きな話題を呼んだ 1951 年の展覧会「アンリ・マチス」展からマティスの「JAZZ」(貴重書)や関連資料を展示・紹介した。また平成館特別展会場内にも貴重洋書を 1 点展示し、図録に作品解説を載せて紹介した。 ・ 各種新型コロナウイルス対策を取りつつ、日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って制限を緩和し、利便性の向上に努めた。 ・ 英語、中国語、韓国語の配布用(紙媒体)利用案内リーフレットを作成し、外国人来館者の利便性向上に努めた。 ・ 自館・他館の特別企画展示用に貴重書を貸与し、展示の充実に貢献した。 ・ Wikipedia の文化財記事を充実させるためのエディタソンに会場を提供し、列品に関する資料や画像の利用方法を紹介することにより、外部文化財情報の充実に貢献した。 																		
【補足事項】	<p>2) (東京国立博物館)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>ア 新規受入図書</td> <td style="text-align: right;">4,358 冊</td> <td>既存図書の遡及入力</td> <td style="text-align: right;">18 冊</td> </tr> <tr> <td>逐次刊行物の新規受入</td> <td style="text-align: right;">2,462 冊</td> <td>逐次刊行物の遡及入力</td> <td style="text-align: right;">26 冊</td> </tr> <tr> <td>イ 当館開催展覧会カタログ</td> <td style="text-align: right;">1190 件</td> <td>他館開催展覧会カタログ</td> <td style="text-align: right;">1581 件</td> </tr> <tr> <td>当館刊行図書</td> <td style="text-align: right;">1024 件</td> <td>当館・機構内他館刊行雑誌</td> <td style="text-align: right;">16 件</td> </tr> </table>			ア 新規受入図書	4,358 冊	既存図書の遡及入力	18 冊	逐次刊行物の新規受入	2,462 冊	逐次刊行物の遡及入力	26 冊	イ 当館開催展覧会カタログ	1190 件	他館開催展覧会カタログ	1581 件	当館刊行図書	1024 件	当館・機構内他館刊行雑誌	16 件
ア 新規受入図書	4,358 冊	既存図書の遡及入力	18 冊																
逐次刊行物の新規受入	2,462 冊	逐次刊行物の遡及入力	26 冊																
イ 当館開催展覧会カタログ	1190 件	他館開催展覧会カタログ	1581 件																
当館刊行図書	1024 件	当館・機構内他館刊行雑誌	16 件																
【年度計画に対する総合評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	<p>新型コロナウイルス対策として、対非来館サービスの一つとして図書館間の文献複写サービスやレファレンスも3年度に続き従来の外部図書館以外にも広く対応し、館内外における利便性の維持・向上を図った。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。創立150年記念特別展では、会場内での展示・作品解説のほか、閲覧室内でも特別な展示を行い、内外に情報発信を行った。また書庫管理運用についても他館の参考に資するべく事例発表2件を行った。新型コロナウイルスに係る資料館の運営についても、ガイドラインに則り、来館利用者の安全に配慮しつつ適宜制限を緩和し、利便性の向上に努めた。</p>																
【中期計画記載事項】	<p>1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。</p> <p>2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。</p>																		
【中期計画に対する評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	<p>新型コロナウイルスの影響により、利用者が安心して利用できるよう各種利用制限を設けて運用しているが、ガイドラインの改定に合わせて資料館の利用制限も適宜緩和し、利便性を高めた。加えて、資料の調査方法や書庫管理についても対外的に情報発信に努めた。3年度に続き閲覧室運用費用や資料購入及び整理保存の大幅な予算減及び人員不足の状況下において、外部基金の活用などで例年同様の収集、蓄積と未整理資料の整備を進め、新着資料や特別展開連資料等の情報の発信と充実に努めた。以上より、順調に中期計画を進めることができたと判断し、B評価とした。</p>																

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																					
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開																																					
【年度計画】																																						
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通)、(京都国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-2) (京都国立博物館) ア 																																						
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡																																			
【実績・成果】																																						
I-1-(3)-②-1) (4館共通)																																						
ア 「国立博物館収蔵品統合検索システム ColBase」に項目「種別」が新たに追加されたことに伴い、当館の収蔵品管理システムにも当該項目を追加し、作品情報を豊かにするため業者と打ち合わせを行った。 (京都国立博物館)																																						
ア																																						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 館蔵品データベースにデジタル画像を2,741枚追加し、情報量充実を図った。 ・ 当館公式ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、これまでの課題を基にリニューアルを行った。 																																						
イ オンラインによる画像利用申請を実施するにあたり、館蔵品データベースに必要な機能を整理した。																																						
I-1-(3)-②-2) (京都国立博物館)																																						
ア																																						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査、研究、教育等に資するため、図書1,305冊、逐次刊行物1,728冊、新たに収集、蔵書管理システムに登録した。 ・ 蔵書管理システムをリニューアルすることで、図書や逐次刊行物の整理、管理に関する業務効率の向上を図った。 ・ 蔵書管理システムのリニューアルに併せ、OPAC(オンライン蔵書目録)のリニューアルを行い、蔵書検索だけではなく、調査、研究環境の向上を図った。 																																						
【補足事項】																																						
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■検索結果 全12685件(1~10件を表示) 次へ ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定</th> <th>作品・文化財の名称</th> <th>作者</th> <th>時代・世紀</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>徳本人喜像</td> <td>伝藤原信実</td> <td>鎌倉</td> <td>絵画(A)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>全別紙古経巻</td> <td>空海(弘法大師)</td> <td>平安9世紀</td> <td>書籍(B)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>白梅双鶏図</td> <td>伝宋岡</td> <td>不明</td> <td>絵画(A)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>傲然空山水図</td> <td>伝王原祁</td> <td>不明</td> <td>絵画(A)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>花鳥図 蓮雀</td> <td>陳炯</td> <td>清18世紀</td> <td>絵画(A)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>権謀知図</td> <td>宋愚翁</td> <td>不明</td> <td>絵画(A)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(リニューアル前の館蔵品データベース)</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>(リニューアル後の館蔵品データベース)</p> </div> </div>				指定	作品・文化財の名称	作者	時代・世紀	分類		徳本人喜像	伝藤原信実	鎌倉	絵画(A)		全別紙古経巻	空海(弘法大師)	平安9世紀	書籍(B)		白梅双鶏図	伝宋岡	不明	絵画(A)		傲然空山水図	伝王原祁	不明	絵画(A)		花鳥図 蓮雀	陳炯	清18世紀	絵画(A)		権謀知図	宋愚翁	不明	絵画(A)
指定	作品・文化財の名称	作者	時代・世紀	分類																																		
	徳本人喜像	伝藤原信実	鎌倉	絵画(A)																																		
	全別紙古経巻	空海(弘法大師)	平安9世紀	書籍(B)																																		
	白梅双鶏図	伝宋岡	不明	絵画(A)																																		
	傲然空山水図	伝王原祁	不明	絵画(A)																																		
	花鳥図 蓮雀	陳炯	清18世紀	絵画(A)																																		
	権謀知図	宋愚翁	不明	絵画(A)																																		
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】																																				
評定：B		デジタル画像を館蔵品データベースへ2,741枚追加し、作品情報の充実に資することができた。また、館蔵品データベースをリニューアルすることで、スマートフォンやタブレット端末等、PC以外の閲覧環境に対応することができた。新しい館蔵品データベースは、令和5年度に公開予定である。 また、館蔵品データベースだけではなく、利用開始から10年以上経過していた蔵書管理システムについてもリニューアルすることができたため、B評定とした。																																				
【中期計画記載事項】																																						
1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。																																						
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】																																				
評定：B		中期計画の2年目として、3年度の準備を基に館蔵品データベースと蔵書管理システムのリニューアルを行った。いずれも、要機密情報を扱わないサービスとして、クラウドサーバを活用し、機器の耐用年数に伴う、経年劣化などの課題を解決することができた。5年度以降は、リニューアル後のシステムに対して、必要に応じた改修を行い、さらなる取り組みの充実化を図る。																																				

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通)、(奈良国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-2) (奈良国立博物館) ア 			
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 野尻忠
【実績・成果】			
1) (4館共通)			
<p>収蔵品データベースにおいて収蔵品等の掲載情報充実につとめ積極的に公開した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 仏教美術情報の公開・普及を図ることを目的に、撮影やデジタル化などで収集した画像データを4,054件、新たに登録した。</p> <p>イ ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には、引き続き無償ダウンロードで対応した。</p>			
2) (奈良国立博物館)			
<p>ア 図書館情報システムと写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、図書館情報システムには1,970冊(和書1,929冊、漢籍17冊、洋書24冊)を新たに登録し、写真情報システムには4,054件を新たに登録するとともに、これらの資料と写真情報を仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。</p>			
【補足事項】			
<p>・ 仏教美術資料研究センターでは、2年8月以降、外部利用者の入館を完全予約制としている。予約状況は、図書検索システムOPACにある開館カレンダーから、「もっと見る」ボタンをクリックして次頁へ遷移すると、確認することができる。その「もっと見る」ボタンの存在を分かりやすくするため、システムの改修を実施した(8月)。</p>			
		 <p>拡大</p> <p>当館のOPACは、開館カレンダーの上にある「もっと見る」ボタンを押して次頁へ遷移すると、当日の利用予約状況を見られるようになっている(令和2年8月の予約制度スタート時から)。</p> <p>従来のOPACでは「もっと見る」の右にRSSのマークが表示され(右下、参考図)、こちらのほうが目立っていたため、誤ってRSSマークをクリックしてしまう利用者が存在した。</p> <p>この状況を改善するため、システムのメニューに依拠し、RSSボタンを非表示にした。</p> <p>非表示にして以降、RSSが使えないことに対する苦情等はない。</p> <p>参考図 他館等様の現在のOPAC「もっと見る」の右に、RSSのマークがある</p>	
【年度計画に対する総合評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	文化財画像の公開件数は、例年並に着実に追加することができた。また、ウェブサイト上で公開している画像は、商業目的利用にあっては掲載申請を求めているが、トラブル等なく順調に運用できた。図書情報システムへの登録件数も順調に増えてはいるが、作業が追いつかず登録待ちとなっている図書もあり、この状況を解消するため、5年度以降、図書系の体制を整えていきたい。
【中期計画記載事項】			
<p>1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。</p> <p>2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。</p>			
【中期計画に対する評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	文化財のデジタル画像の公開は、新規撮影・フィルムデジタル化データとも、順調に進めることができた。また、図書資料については、新型コロナ以前のように助成金を得ることができず、研究資料の充実に十分に実現できているとは言い難いが、限られた予算の中で可能な収集に取り組んでおり、計画を着実に遂行できたためB評価とした。一方で、仏教美術資料研究センターの設備老朽化と書架の飽和状態は喫緊の課題であり、当面はその課題解決に重点を置く。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1) 有形文化財に関する情報の発信 2) 資料の収集と公開		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通)、(九州国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-2) (九州国立博物館) ア 			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 白井克也
【実績・成果】			
<p>I-1-(3)-②-1) (4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」に新収品を含むデータ79件を追加した。また、30件分のデータに対して、新たに作品種別を付与することでサービス向上に努めた。 ・「e国宝」にデータ1件を公開し、これにより当館が所蔵する全ての指定品の掲載が完了した。また、新撮した高精細画像を135点公開した(差し替えを含む)。 (九州国立博物館) <p>ア 収蔵品ギャラリーに、新収品を含む79件のデータと916点の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報を発信した。</p> <p>イ 対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を行った。また、同データベースのリニューアル仕様書を作成し、入札公告を行った(5年度開札予定)。</p> <p>I-1-(3)-②-2) (九州国立博物館)</p> <p>ア</p> <p>○蔵書管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に図書560点、雑誌776点、図録・報告書2,322点、メディア27点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。 ・利便性並びに管理効率向上のため、引き続き図書資料の再分類と装備修正を行った。 <p>○画像管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像管理システムに5,182点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。 ・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約1,500点の画像を新規に追加した。活用可能な画像の一覧を公開することで、文化財画像の活用に係るサービスを向上した。 			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーで画像を含む収蔵品データを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。また、対馬宗家文書データベースを引き続き公開しつつ、リニューアルに着手した。 3年度に引き続き、新規に図書等を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データ整備を進めた。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。以上の成果から、年度計画を達成し、B評定とした。	
【中期計画記載事項】			
<p>1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。</p> <p>2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。</p>			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開した。中期計画に基づきデータや画像の公開件数を継続して増やしている。 図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。以上の成果から、中期計画を円滑に推進し、B評定とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-1 (機構本部) ア、イ								
担当部課	本部事務局総務企画課			事業責任者	課長 渋沢志穂			
【実績・成果】 (機構本部) ア ・『独立行政法人国立文化財機構概要 令和4年度』（日本語版・英語版）を発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト (https://www.nich.go.jp/) に掲載した。 ・『独立行政法人国立文化財機構年報 令和3年度』を3月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。 イ ・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。 ・10月31日に機構本部ウェブサイトをリニューアル公開した。リニューアル後のウェブサイトは、「JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」に対応し、アクセシビリティの向上及び確保に努めている。								
【補足事項】 ア ・『独立行政法人国立文化財機構概要 令和4年度』：日本語版1,400部、英語版300部発行 ・『独立行政法人国立文化財機構年報 令和3年度』：167部発行								
								
リニューアル後の機構本部ウェブサイトのトップページデザイン								
【評価指数】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	379,623	298,703	A		336,016	362,356	302,279	409,102
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 年度計画に沿って、機構の概要及び年報を作成した。また、当初の計画よりも前倒しし、アクセシビリティを向上させたウェブサイトをリニューアル公開することで、よりわかりやすく法人情報の発信を行うことができた。ウェブサイトについて、計画を前倒ししてのリニューアルを達成できたためA評価とした。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期目標期間の2年目として、広報印刷物やウェブサイトを活用した積極的な広報活動を行うことができた。また、機構本部ウェブサイトについては、高齢者や障害者を含め、誰もが閲覧しやすいよう、ウェブアクセシビリティにも配慮した形で大幅なリニューアルを行った。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-3)-1 (4館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (4館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ、ウ 			
担当部課	学芸企画部広報室 総務部総務課	事業責任者	室長 鬼頭智美 課長 竹之内勝典
【実績・成果】			
I-1-(3)-②-3)-1 (4館共通) ア 4年度は3年度に引き続き当館ウェブサイトにて年間スケジュールのページを作成し、年間の主な展示作品や展覧会を紹介することとした。 (東京国立博物館) ア 東京国立博物館ニュース(年4回発行)を制作し、総合文化展広報に努めた。主な事業についてはプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。なお、周知に当たってはウェブサイト・公式SNSを重点的に活用し、最新の情報を速やかに案内したほか、適宜SNS広告を出稿し、幅広い訴求活動を実施した。 イ 新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、公式キャラクター「トーハクくん」、「ユリノキちゃん」による来館者のグリーティング活動を実施するなど、親しみやすい博物館を訴求した。 ウ 創立150年事業にかかる情報を集約した記念特設本サイトを4月1日より公開、順次内容を更新し、周知に努めた。併せて新収品(金剛力士立像)紹介動画、SNSプロモーション用動画等を制作し、SNS広告の出稿や公式SNSでの投稿に活用するなど、オンラインでの広報活動にも注力した。また、JR都内主要駅や上野近隣施設の協力も仰ぎながら、都内各所へサイネージ広告、ポスター、ペナント等を掲出し、新規来館者層へのアプローチも行った。J-WAVEに「月イチ! トーハクキッズデー」の後援名義を申請し、ラジオCMや番組にてキッズデーおよび周年事業の周知を図るとともに、親子向けライブと新規来館者向けのライブを各1回ずつ実施した。既存の利用者層には東京国立博物館ニュースやメールマガジン等を通じて定期的に周知活動を行った。			
I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア JR上野駅、羽田空港等に広告出稿を継続したほか、創立150年事業の一環で、JR上野駅中央改札外に大型フラッグを掲出するなど、より連携した広報活動を行った。 (東京国立博物館) ア 特別展等の報道発表会を4回、報道内覧会を6回実施した。 イ 上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載、東京メトロ上野駅「文化の杜路」やJR上野駅構内へのポスター掲出等を継続して行った。また、創立150年事業では上野商店街での街路灯ペナント掲出、上野のれん会加盟店での広報物掲示・配布など、近隣組織と連携して広報活動を実施した。			
I-1-(3)-②-3)-3 (4館共通) ア ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。なお、アクセシビリティ向上を目的に、ウェブサイト改訂した。4月4日より新デザインを稼働させた。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』を季刊(年4回)で各60,000部の制作、配布を実施した。 イ 公式SNSでの投稿を想定した縦長短編動画等、動画コンテンツの制作、発信を行った。 ウ SNSによる適時性のある情報発信を行った。メールマガジンを25回配信した。			
【補足事項】			
I-1-(3)-②-3)-1 (東京国立博物館) ア 東京国立博物館ニュース4年9・10・11月号は、創立150年記念特別号として通例よりもページ数を増やし、特集展示や教育普及プログラムをはじめ創立150年記念事業を手広く紹介した。			
I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア 創立150年事業の広報として、10月10日～23日の14日間にわたりJR上野駅中央改札外に大型フラッグを掲出した。 (東京国立博物館) イ 4年度を通して1年間に及び上野マルイの店内サイネージに2分間のプロモーション映像を掲出した。また、7月4日～10月2日には上野商店街に街路灯ペナントを出稿した。			
I-1-(3)-②-3)-3			

(4館共通)

ア ウェブサイトの改訂にあたっては、アクセシビリティの向上を目的に、トップページ等のデザインやナビゲーションの一部を変更。4月4日から新デザインを稼働させた。

(東京国立博物館)

ウ Twitter：フォロワー144,129件(3年度135,079件)。Facebook：いいね！36,105件(3年度35,695件)。Instagram：フォロワー48,748件(3年度46,667件)。YouTubeチャンネル：登録者数23,741件(3年度19,830件)。



上野中央改札外大型フラッグ

【評価指数】	4年度実績	目標値	評 定	経 年 変 化	30	元	2	3
ウェブサイトの アクセス件数	10,569,749件	7,277,091件	A		7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	年度計画に沿って着実に事業を実施している。4年度は創立150周年を軸とした広報活動により、普段より新規利用者層を意識した広報活動を行い、若年層を中心とした新たな層へのアプローチができた。							
【中期計画記載事項】	<p>展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。</p> <p>ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。</p>							
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>創立150年の年にあたり、新規来館者層の開拓を目的として、ウェブサイト、SNSなどにより、広く国民やマスコミ、ウェブ媒体へ充実した情報発信ができた。創立150年記念特設サイトの活用、アクセシビリティ対応を進めるとともに、SNSでの動画配信を強化するなど、デジタル展開をより積極的に行った。</p> <p>以上、中期計画2年目として、順調に計画を進めることができた。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-3)-1 (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ、カ 			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 企画室長 山川暁
【実績・成果】			
3)-1			
(4館共通)			
ア 年間スケジュールの配布(4年度分、4言語にてWEB公開)及び製作準備(5年度分、15,000部)を行った。 (京都国立博物館)			
ア 特集展示「新発見! 蕪村の「奥の細道図巻」」リーフレットや、特別公開「熊本・宮崎の古墳文化—石人と貝輪—」リーフレット、「京博のお正月2023」チラシ、特集展示「雛まつりと人形」リーフレットをはじめ、各種イベントのポスター、チラシの製作・配布を行った。			
イ 3年度発行の日本語版に引き続き、4年度は「京都国立博物館ハンドブック」韓国語版を発行した。			
ウ 公式キャラクター・PR大使「トラりん」を活用した広報活動を行った。			
3)-2			
(4館共通)			
ア			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展「最澄と天台宗のすべて」では、読売新聞社、読売テレビと連携し紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。 ・ 特別展「河内長野の霊地」では、京都新聞と連携し紙面広告等の広報を行ったほか、京都駅への交通広告出稿を行った。 ・ 特別展「京に生きる文化 茶の湯」では、読売新聞社と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。 ・ 特別展「親鸞—生涯と名宝」では、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と連携し紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。 ・ 新春特集展示「卯づくし—干支を愛でる—」では、産経新聞への広告出稿や京都駅への交通広告出稿を行った。 ・ 特別展・平常展示の記者発表会を7回、記者内覧会を6回実施した。 			
(京都国立博物館)			
ア 京都市が主催するスタンプラリーへの協力や、動物園との相互広報等、地域の各種団体と連携し、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。			
イ 「京都市内4館連携協力協議会」で連携し、共通の展覧会パンフレットの制作、連携講座や相互割引、スタンプラリー等を実施した。			
3)-3			
(4館共通)			
ア ウェブサイトのリニューアルを機に、ユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。 (京都国立博物館)			
ア 『京都国立博物館だより』(214~217号)、『Newsletter』(153~156号)を発行し、ウェブサイトに掲載した。			
イ メールマガジンをリニューアル(html化)し、視覚的訴求力を高めるとともに、アクセス解析をおこない満足度の高いページ構成を検討の上、配信した。配信は月1度の12回(193号~204号)。			
ウ 収蔵品貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」に52件公開した。			
エ 当館公式ツイッター・YouTubeチャンネル、公式キャラクター「トラりん」のブログ・ツイッター・フェイスブックを利用して継続した情報発信を行った。特に当館公式ツイッターは、ツイッター社ポリシーを遵守し、かつ、当館に興味を持ち来館のきっかけとなるように、作品や教育コンテンツの紹介など投稿内容の充実を図った。			
オ ウェブサイトをリニューアルし、モバイル対応・多言語ページの拡充を行い、利用性・情報発信力を向上させた。			
カ 3年度に引き続き、博物館の活動を紹介する漫画をウェブサイトで連載した。			

【補足事項】

3)-1

(京都国立博物館)

ア 「京博のお正月2023」ポスター・チラシでは、新春特集展示「卯づくし—干支を愛でる—」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。

ウ 京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2022 にトラりんを出張させて、展覧会や当館のPR活動を行った。また、ソーシャルディスタンスを確保した安全な距離で、トラりんを最大週3回、1日3回館内に登場させて親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。



京まふ2022に登場するトラりん

3)-3

(4館共通)

ア ウェブサイトの解析システム変更のため、4年度のウェブサイトのアクセス件数は、旧解析システム期間（4/1～5/17）及び新解析システム期間（5/18～3/31）のアクセス数を合算し実績値とした。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,948,061件	4,386,804件	D		4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043

【年度計画に対する総合評価】

評価：B

【判定根拠、課題と対応】

ウェブリニューアルを機にユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。それに伴いアクセス件数の数値上の実績はこれまでより大幅に下回ったが、これは新旧解析システムのユーザーセッションカウント方法の違いによるものであり、システムの変更によりユーザーの細かな趣向の解析が可能となった点は評価できる。

また、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布は効果的に行うことができ、特別展においては主催メディアや共催メディアと協力して多様な広報を実施することができた。以上の点から、評価をBとした。

なお、ウェブサイトのアクセス件数については、5年度に目標値を再設定した上で、アクセス数の向上及びユーザビリティの一層の向上を目指す。

【中期計画記載事項】

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。



ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】

評価：B

【判定根拠、課題と対応】

展覧会に応じて多様な広報展開を実施することができた。また、当初予定通りウェブサイトのリニューアルも出来たため、中期計画を順調に遂行できたといえる。5年度以降は、新たなウェブサイトをはじめとする各種広報媒体を活用し、積極的な広報活動を図る。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】	<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-3)-1 (4館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (4館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ 		
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 大西真一 情報サービス室長 宮崎幹子
【実績・成果】	<p>1 (4館共通)</p> <p>ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布 (WEB公開を含む) を行った。 (奈良国立博物館)</p> <p>ア 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行った (『奈良国立博物館だより』、特別展・わくわくびじゅつギャラリー・特別陳列のポスター・ちらし6回分)。</p> <p>イ ・特別展の割引券を近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。 ・文化大使として笑い飯・哲夫氏 (よしもとクリエイティブ・エージェンシー) が出演するテレビやラジオ等で当館のPRを行った。 ・仏像大好き芸人である、みほとけ氏 (浅井企画) との交流を継続し、氏のSNSを通じ間接的に当館のPRを行った。 ・館のSNSで当館公式キャラクター「ざんまいず」を積極的に活用し、館のPRと新たな客層の開拓をした。</p> <p>ウ プライダルの前撮り撮影場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。また、撮影場所についてのクレジット表記をクライアントに依頼することで、当館の認知度を向上させることに努めた。</p> <p>2 (4館共通)</p> <p>ア マスコミ媒体や公共機関等と連携した広報活動を展開した。 (奈良国立博物館)</p> <p>ア ・特別展「中将姫と當麻曼荼羅」では當麻寺と当館の間でスタンプラリーを実施し、相互の集客に繋げた。 ・特別展「春日若宮国宝展」では春日大社国宝殿で開催する企画展とのセット券を販売し、相互の集客に繋げた。 ・奈良トライアングルミュージアムズや OKミュージアムパスポート、国立民族学博物館友の会、MIHO MUSEUM友の会との相互割引を継続し、来館者数増加及び各博物館との連携強化に繋げた。</p> <p>イ 展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに、原稿・画像提供依頼や誌面作成に積極的に協力した。</p> <p>ウ ・奈良県・奈良市等が実施するイベントへ講堂の貸し出しや講師の派遣などで協力・連携した。 ・地元商店街と連携してチラシ掲示やポスター配布などの広報活動を展開した。</p> <p>エ 近隣社寺等において展覧会チラシの配布等広報協力を依頼した。</p> <p>3 (4館共通)</p> <p>ア ウェブサイトによる情報公開を行い、報道発表と合わせた迅速な情報提供に努めるなど、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指した。 (奈良国立博物館)</p> <p>ア 特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った (年4回)。</p> <p>イ 名品展や特別展、イベント情報等をウェブサイト及び SNS (Twitter) に掲載し、来館者数増加に繋げた。Twitter や YouTube では単なる情報発信だけではなく、公式キャラクター「ざんまいず」ぬいぐるみを利用しキャラクターが呼びかけているような情報の発信方法なども実施し、新たな来館者の獲得とフォロワー数の増加に努めた。</p> <p>ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。</p> <p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール配信ソフトおよびプレスリリースサイトを導入し、対面によらない報道発表にも対応可能な体制整備に努めた。昨年に引き続き正倉院展の対面による報道発表が中止となったが、メール配信ソフトおよびプレスリリースサイトの活用により、円滑に対応することが叶った。 ・ウェブサイトの機能追加を行い、予約更新が可能な箇所を増やした。トップページのスライダーを日時設定で更新できるようにし、担当者の勤務に左右されずに最新の情報が公開される体制が整った。 ・YouTube「ならはくチャンネル」で動画を公開し、奈良博の魅力発信・認知度向上に努めた。 ・奈良蔦屋書店で過去図録の販売を継続し、自己収入確保及び当館の知名度向上に努めた。 ・奈良博公式キャラクター「ざんまいず」を広報物やSNSで積極的に使用することで、奈良博の知名度向上に繋げた。「ざんまいず」LINEスタンプの販売も継続し、自己収入の拡大に繋げた。 ・昨年度実施したクラウドファンディングにより改修した庭園を、動画やSNSで積極的に公開し、また正倉院展にあわせて一般公開することで、館の魅力向上に繋げた。 		
メール配信ソフト画面			<p>SNS での公式キャラクターの活用</p> 

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年 変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,129,746件	1,331,550件	B			1,316,654	1,704,901	1,082,864
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 情報発信の基盤となるウェブサイトを中心に、広報活動を滞りなく進めることができた。ウェブサイトの改修を重ね、運用上の改善をはかるとともに、アクセス件数の向上を図った。また、当館公式キャラクター「ざんまいず」等を用いた情報発信により、当館のPRに繋げることができた。							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 CMSの導入により、全館的に広報や情報発信が可能となる環境を整備することができており、積極的な広報活動を目指す中期計画に基づき、順調に事業を遂行できている。 昨年度実施したタレントとの連携企画、ニコニコ美術館、奈良蔦屋書店での図録販売などの取り組みを今年度も継続し、積極的な広報活動を行っていることから、中期計画を順調に遂行できている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供、3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(3)-②-3)-1 (4館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (4館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ 			
担当部課	学芸部企画課 広報課 総務課	事業責任者	課長 伊藤信二 課長 野田智子 課長 執行正一
【実績・成果】			
3)-1			
(4館共通)			
ア 年間スケジュール・リーフレットを製作し、配布した。 (九州国立博物館)			
ア 特別展ごとにポスター、チラシ等を製作した。さらに、担当者によるテレビ・ラジオ番組への出演や地元新聞社、雑誌、フリーマガジン等へ展覧会情報を発信し、公式Twitterで展覧会の見所を紹介した。			
イ 応援大使サラ・オレイン氏がナレーションを務める広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」を製作した。			
ウ 展示リストのウェブデータベースの整備を継続した。			
エ 福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続した。またSNSでは、これまでの公式Twitterに加え、公式Instagramを立ち上げ、展示品や館内外の風景など、当館の様々な魅力を発信した。			
オ 大手百貨店と連携してコラボ商品を作成した。			
3)-2			
(4館共通)			
ア 主要駅でのデジタルサイネージの掲出など、公共交通機関等と連携した広報活動を実施した。 (九州国立博物館)			
ア 特別展ごとにマスコミ各社を対象とした記者発表会、内覧会を実施した。			
イ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 太宰府観光協会と連携して、太宰府天満宮参道で特別展と特集展の告知フラッグを設置した。 ・ 特別展「琉球」の開催にあたり、沖縄福岡県人会の総会でポスター・チラシを配布し、所属会員店舗にポスターを掲示していただくなど、連携して特別展の周知を図った。 			
ウ 新型コロナウイルスの影響により、九州観光推進機構等を通じた海外に向けた広報や営業は中止した。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語(日・英・中・韓)での情報発信を継続して行った。			
エ 博多祇園山笠振興会等と連携し「飾り山笠」の展示企画を実施した。			
3)-3			
(4館共通)			
ア 展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、公式Twitterにて駐車場空き情報を随時提供した。 (九州国立博物館)			
ア スマートフォンでの閲覧に適したレイアウトによるウェブサイトでの公開を引き続き行った。また、ウェブアクセシビリティにも積極的に対応し、利用者の利便性に配慮した情報発信に努めた。			
イ 4言語(日、英、中、韓)による情報提供を継続して行った。			
ウ 「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光機関等に送付したほか、より多くの人に見ていただけるよう、ウェブサイトにも掲載した。			
エ メールマガジンは月2回発行し、展示の見所やイベント情報などを配信。Twitterや4年度開始したInstagramでは、館外の風景やショップグッズの案内なども投稿し、当館に興味を持っていただけるような情報発信を継続して行った。			
オ 特別展ごとに、特別展担当者と広報課職員が魅力を伝える動画を製作し、当館のYouTubeチャンネルで紹介した。			



公式 Instagram の開設

【補足事項】 3)-3 (九州国立博物館) エ メールマガジン開封率 約40% (4年度24回配信) Twitterフォロワー 25,456人 (4年度約4,400人 増) Instagramフォロワー 2,632人 (4年6月15日開設)								
【定量的評価】 項目	4年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,430,301件	1,670,014件	C		1,752,803	2,047,955	824,819	977,605
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物やチラシなどの紙媒体のほか、Twitter やメルマガなどのウェブサイトを活用した。特に新たな九博ファンの獲得につなげるため6月に公式Instagramを開設し、2,600人を超えるフォロワーを得た。ウェブサイトのアクセス件数は目標値に届かなかったものの、SNS における情報発信を積極的に行い新たなファン層を開拓できたことから、年度計画を達成したと判断し、B評価とした。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトやSNSを活用し、来館できない方にも館の魅力を伝えられるよう、積極的な情報発信を行った。また、マスコミや交通機関、地域の観光団体など関係機関との連携による広報活動を実施した。以上の実績を踏まえ、ウェブサイトのアクセス件数の目標値は達成できなかったが、中期計画を遂行できたと判断し、B評価とした。						